

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 38	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 家畜ふん堆肥の施用による残留農薬成分の被害軽減策について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ・農薬成分であるクロピラリドが残留している牛ふん堆肥を施用したことにより、当該成分に感受性の高いトマトなどを中心に生育障害が報告されている。 ・園芸経営にとっては、経営に直結する重要な課題であり、畜産経営にとっても、たい肥の流通が滞ることは経営存続に関わる課題である。 ・クロピラリドの牛ふんたい肥への残留は輸入飼料の給与が原因であるが、自給飼料基盤が脆弱な本県の畜産経営において、有効な対策を講じることは困難な状況である。 ・そこで、作物に対して、残留したクロピラリドの影響を軽減するたい肥化手法や作物の生育障害を軽減する栽培手法等について検討していただきたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部 土壌環境研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) IX-1 (2) 堆肥等有機質資源の有効活用技術の開発 ウ 未利用有機質資源の有効活用技術の開発		
対応の内容等	クロピラリドの影響を軽減するための堆肥化方法や作物の生育障害を軽減する栽培手法等については、関係機関からの情報収集に努めると共に、農研機構などとの共同研究等による取り組みを検討します。 また、クロピラリドの残留を早期に検出することも重要と考えられますので、クロピラリドの生物検定法の迅速化等については、上記、課題の中で検討を行います。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			